

雅風会たより

第9号



目次

- ◆ はじめに
- ◆ 第60回仏教美術展報告
- ◆ 思い出の作品 1 -吉祥天像-
- ◆ 仏教美術展（第60回）に参加して
- ◆ 文殊さま光背に「迦陵頻伽」！
- ◆ あ・ら・か・る・と

2024年1月10日 編集・発行 宗教芸術院「雅風会」
東京都品川区大崎 3-3-10

URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/>

◆ はじめに

「雅風会たより」第9号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

おかげさまで雅風会発足より6年目を迎えました。会員の皆様と歩んだ5年間、長いコロナ禍など予期せぬできごともありましたが、「継続は力なり！」を実感しつつあります。

昨年は当会の大きな転換を迎えた年でもありました。5年経つうちに、雅風会関係者も皆同じだけ歳を重ね、「寄る年波には・・・」が顔を出すようになってまいりました。そのような事情から記念館教室は6月末日をもって終了し、研鑽会、賛助会、雅風会の拠点を品川教室に移しました。長い間研鑽や教室の場所を提供してくださった館長ご夫妻に感謝し、川村先生の作品を前に学べた5年間の糧に、これからも仏像彫刻に励んでまいりたいと思っております。

また、当初記念館教室一箇所だけだった仏像彫刻教室は、現在、東京、埼玉、新潟の5教室7コースに広がりました。昨秋の第60回仏教美術展に各教室から生徒さんの参加者を得たことは、5年前に発足したばかりの雅風会を快く支部として認めてくださった宗教芸術院様のご温情に、やっとなんかの少しだけ報いることができたような気がしております。

雅風会の作品展！ 前はコロナ禍で中止を余儀なくされましたが、開催へ向けて再スタート！ 仏像彫刻のご縁がこれからも繋がりが広がっていくことを願いながら進んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 (岩場記)



◆ 第60回仏教美術展報告

昨年は60回目の記念する仏教美術展が11月3日から5日まで開催されました。大変ありがたいことに今年も搬入日から良い天気にも恵まれての仏教美術展でした。今回は雅風会としては4回目の出品参加です。



搬入の受付を済ませると、嬉しい事に出品者全員に60回記念の紅白のお饅頭がプレゼントされました。(期間中のおやつに美味しくいただきました)

今年の雅風会は東京、埼玉、新潟の各教室から生徒さんの出品があり皆様が頑張っている様子が結果として表れてきて大変うれしいことでした。仏教美術展前日の搬入日には一年ぶりの再会とお互い元気でまた仏教美術展で京都に来られたことに感激して喜びあい、めいめいが努力の結晶の作品を丁寧に展示していました。



仏教美術展では、毎年のことですが仏所をはじめ出品者の方々の作品を、観る人それぞれが自分の受け止め方でこれからの自身のため参考にするがごとく、お気に入りの作品をじっくり観られている光景があらこちらで見受けられました。

出品して満足するのではなく、他の人の作品も細部まで丁寧に鑑賞して感銘を受けた作品からその表現の方法を、自分のこれからの作品制作に取り入れて自分の彫刻をより良く表現する技術を習得していくことが仏教美術展に参加することの大切な意義だと思います。

第61回仏教美術展で、また多くの人々にお会いできるのを楽しみに仏像彫刻を頑張っていきたいと思っております。(竹内記)

◆ 思い出の作品 1 -吉祥天像- (川村 雅則)



平成3年に、初めて極彩色による模刻を試みました。

有名な京都浄瑠璃寺の吉祥天を、主に写真資料だけで造り始めましたが、浄瑠璃寺へ実物を拝観に行き、修正も加えました。

一番勇気がいったのは、古色仕上にするときでした。せっかくきれいに彩色されたものを汚していくわけですから、失敗

したら元も子もないという思いでした。幸いに、宗琳先生から古色技法を伝授して頂き実践してみましたが、我ながら満足いく出来だったと自負しています。

宗教美術展で、宗琳先生に見て頂いた時に、先生から、「浄瑠璃寺へ行って本物とすり替えて来ても分からへんで！」と、冗談を言っていた頂き、大変嬉しかったことを思い出します。

(「HPに寄せて3」より抜粋)

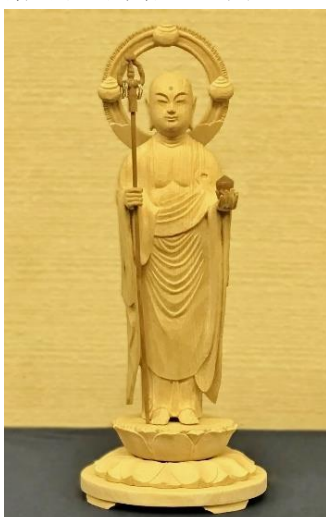
◆ 仏教美術展(第60回)に参加して (笹目 悟)

2021年12月から雅風会の「仏像彫刻教室」に入会し、例年京都で開催されている仏教美術展の第59回に、初めて聖観音の仏頭と救世観音を出展させていただきました。2回目になる今回は、蓮台座を含む地藏菩薩立像(6寸)を出展すると共に、仏教美術展(第60回)開催期間の最終日(11/5)の1日だけでしたが、東京から京都へ行き参加させていただきました。

今回、仏教美術展の展示会場に入る前に少し時間があつたので、東京でも開催されていましたが見過ごしてしまった特別展「東福寺」が京都国立博物館で開催されているのを知り、見学して色々展示されている中でも3メートルを超える二天王立像の迫力に圧倒され、博物館の向かいにある三十三間堂も拝観し、十一面千手千眼観音、左右500体の観音像に魅了され、堂内の雰囲気清浄な気持ちになって、いざ仏教美術展の会場へと向かいました。



三十三間堂



会場に入ると、やはり本部主宰の作品展ということで出展されている作品の多さにビックリし、鮮やかな彩色や黒く映える漆塗り、金箔で彩った仏さま、豪華で、丁寧で、気が遠くなるような時間と技術の注がれた作品の数々、そして私のように初心者で、仏像彫刻のすすめの教本内の作品も多く展示されていることに少し安心したのと同時に、他の作品を見て自作の作品をみると、もっとここを丁寧に彫りこめば、良かったなど反省しきりでしたが、次回の作品に向けて頑張ろうと思える作品展にもなりました。

また、伝統の街・京都を散策して、寺・仏像巡りもしたかったのですが、あまり時間がなく行けなかったのが、次に来るときはもっと計画して、ゆったりした気分で訪れてみたいと思えた一日でもありました。

◆ 文殊さま光背に「迦陵頻伽」！

こんにちは、伊藤宗仁です。今回は第59回仏教美術展に出品致しました文殊さま光背の「迦陵頻伽」について、お話しさせていただきます。



① 文殊菩薩騎獅像



② 光背

こちらの文殊さま①は、東京国立博物館所蔵の「文殊菩薩像」を模刻しました。文殊菩薩さまの光背には、左に笛を吹く迦陵頻伽③が、右に笙を吹く迦陵頻伽④が取り入れられているのが目を引きました。上半身が人で翼があり、下半身が鳥という姿ですが、西洋の羽のある天使とは異なります。

京都の東福寺や知恩院、妙心寺の三門楼上天井画に描かれているのを見られた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

また、第59回仏教美術展で真や先生が出品された「香炉台 迦陵頻伽」をご記憶の方もいらっしゃるかと存じます。(会場では、真や先生に小生の迦陵頻伽をじっくりご覧いただきました。)

光背の上に小さな迦陵頻伽2体に乗って頂くのは、ちょっと大変でしたが、その奏でる美しい音色に後押しされてなんとか彫ることが出来ました。

ありがとうございました。

(伊藤記)



③ 迦陵頻伽 (笛)



④ 迦陵頻伽 (笙)

*** あ・ら・か・る・と ***

◆ 第61回仏教美術展のお知らせ

日時：2024年11月14日(木)～11月17日(日) ※14日(木)は、作品搬入および会場設営日。

出品・参加お申し込みの詳細は、7月発行予定の第10号でお知らせします。

研鑽会、教室、賛助会の皆様、個人でのご出品を希望されている方、ご参加をお待ちしています。毎年のことながら、作品のご準備をよろしく願いいたします。

◆ 研鑽会会費納入のお願い

研鑽会の年度は「4月～翌年3月」、賛助会の年度は「7月～翌年6月」です。会員の皆様には、引き続きご継続いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、新しい会員の方も大歓迎です!! 入会ご希望の方は、岩場(090-2486-0298)へお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

詳細は、当会ホームページをご覧ください。

(第9号編集責任：岩場)

第10号は7月に発行の予定です。